

次期本庄市総合振興計画
序論・基本構想（骨子）への意見など

以下、気がついた部分についての意見・修正などを列記させていただきます。

第3章 本庄市を取り巻く社会経済情勢

p.5 2. 安全・安心意識の高まり

・5行目「国際テロなどの脅威に直面」とありますが、その直前の記述（振り込め詐欺など）との間に大きなギャップを感じます。表現を変えたほうが良いと考えます。

・8行目 「取り組むことの大切さが見直されています」→「取り組むことの大切さが再認識されています」

p.5 3. 高度情報化とグローバル化の進展

・2行目～ ICTやSNS、IoTという流行の言葉が列記されていますが、それらの正式名称を記してから略称を用いたほうが良いと考えます。

p.6 5. 環境・エネルギーの問題意識の高まり

・タイトルに違和感があります。「環境・エネルギー分野への意識の高まり」か「環境・エネルギー問題への関心の高まり」というものが良いのではと考えます。

・記述されている文章全体について考えてみました。

『地球温暖化や生物多様性の損失などは、持続可能な社会の実現のために解決すべき人類共通の問題であり、それらに対する多くの取り組みが国際的に進められています。』

我が国でも、温室効果ガスの削減の取り組みや生物多様性の保全等を進めるとともに、東日本大震災における原子力発電所事故により発生した放射性物質による環境汚染などを背景として、大規模集中型の電力を中心としたエネルギー供給体制から、自然エネルギーを活用した自立・分散型のエネルギー供給体制への転換による低炭素エネルギー社会への移行を促す気運が高まっています。

また、自然環境や生態系を保全するとともに、ゴミの排出量の削減、家庭や事業所などにおける省エネルギーの一層の推進なども求められ、地域における良好な環境を構築することが必要とされています。』

p.7 8. 地方分権・広域行政の推進

・2行目から 修正 「地方自治体が独自の発想で地域の特性を活かしたまちづくりをおこ

なうにあたって、住民サービスの向上や行政経営の効率を高める必要があり、その一環として、国から地方への権限委譲や地方に対する義務付け・枠付けを見直す地方分権改革が推進されています。」

第4章 本庄市の概況と課題

3. まちづくりの主要課題

p.19

- ・① 少子高齢化への対応

「⇒ 家庭と社会で支え合う」→「⇒ 家庭と地域社会で支え合う」

- ・② 次世代を担う人材の育成

「⇒ 地域に根差した学校を中心とした・・・」は、逆説的に言いますと、「地域に根差していない学校」というというものはあまりイメージしにくいです。単に「学校・家庭・地域の連携の強化が必要です。」で良いのではないのでしょうか？

p.20

- ・③ 人々の健康と安心な生活の確保

「⇒ 障害のある人もない人も・・・暖かく・・・」⇒「温かく」

第2部 基本構想 第1章 基本構想

1. まちづくりの基本理念

①～③について、それぞれの箇条書きの文尾の統一感を図った方が良いと考えます。例えば、①について述べれば「環境の提供」や「連携の強化」という調子で統一するなら、「教育の実施（実現）」、「社会福祉の実現（実施）」という具合に。そうしますと、まちづくりの理念の中に「・・・過ごせるまち」というのは少し違和感のある表現であります。例えば、「子どもからお年寄りまで全ての市民の健康の実現」などという具合に。

2. 本庄市の将来像

・4案の中から1案を選択する、という意味であるならば、いずれも少々不足感があります。文字数に制限があるなどでは無いのでしたら、「人がつながり、みんなで育む、安全と安心のまち 本庄 ～世のため、後のため～」というのがよろしいかと考えます。

以上